

## 文学部音楽芸術学科設置の趣旨等を記載した書類

### ア 設置の趣旨及び必要性

2002年、人間科学部の発足とともに開設した芸術表現療法学科は、音楽療法のみならず、絵画・造形等の非言語コミュニケーションによる特殊心理療法をも併せ持つ、総合的な表現療法を教育研究の対象として位置づけたところに学科の特徴の一つがあり、同時に、療法の基礎をなす芸術そのものの教育研究を進めるところにいま一つの学科の特徴があった。しかしながら、本学の進める表現療法は、その後の研究動向を見るとむしろ「芸術療法」と呼ぶべきものであり、また、芸術療法の実践の中で、芸術に存在する「心を癒す力」について一層深く研究を進める必要性も明らかになった。他方、発足当初から芸術を専門に学ぶことをめざす学生は存在したが、芸術そのものを探求しようとする学生の比率が年を追うごとに高くなってきた。このような社会の要請と学生の期待に応えるために、本学科は、2009年、学科名称を「芸術・芸術療法学科」に変更した。

以上の経緯を踏まえ、本学は、2013年、人間科学部芸術・芸術療法学科を基礎に、文学部音楽芸術学科を設置する。芸術・芸術療法学科は入学定員50名の小さな学科であるにもかかわらず、音楽(芸術)・音楽療法・美術(芸術)・美術療法の4分野を持つ総合的な学科として十年余の教育研究を進めてきたが、これを音楽(芸術)に特化した学科に再編し、併せて文学部に編入することにした。

発足当初から上記4分野を志望する学生の数に偏りはあったが、このところ音楽(芸術)を希望する志願者の比率が顕著に高まり、とりわけ音楽高校出身者の本学志望者が増えてきた。音楽芸術学科の設置は、この社会的ニーズに応えようとするものである。また、4分野にわたるカリキュラムを音楽(芸術)に特化することによって教員構成とカリキュラムを変更し、より質の高い教育を行うことが可能になる。さらに、文学部の一学科となることによって、西洋音楽の基礎をなすヨーロッパ文化を学び芸術性を涵養することが可能になる。他方、文学部にとっても、音楽芸術学科の編入は、芸術を含む文化の領域に関する教育研究を一層幅広く進めることが可能になる。ことに、これを契機に新たに設置する学部共通教育科目「文学部リベラルアーツ」(学科のそれぞれの専門性を一層発展させる科目群)は、日本語日本文化学科・英語英米文化学科・外国語コミュニケーション学科それぞれの専門性ととも、音楽芸術学科の専門性を活かすことによって、一層の奥行きを持つものとなる。

#### 1. 文学部音楽芸術学科の理念

質の高い演奏活動を支えるものは、単なる演奏技術だけではない。楽曲に対する深い理解、楽曲を生み出した文化に対する造詣、高度な芸術性を希求する真摯な姿勢など、演奏者の内面的世界の充実が感動を生む演奏を作り上げる。このような意味で、本学科は「音楽学科」では

なく「音楽芸術学科」と自己規定し、文学部の一学科として出発する。西洋音楽の基盤をなすヨーロッパ文化や音楽史の理解に欠かせない美術史に関する授業科目を設置するとともに、文学部の既存3学科と連携して学部共通科目を「文学部リベラルアーツ」としてつくり、広く文化に関わる授業科目を数多く設置したのもこのような理念によるものである

## 2. 中心的な学問分野

本学科の中心的な学問分野は、深い教養と専門知識・技術に裏打ちされた芸術としての音楽を研究対象とする音楽芸術学である。音楽芸術学は、演奏及び楽曲研究、音楽史、作曲・編曲、音楽教育、民族音楽など多様な研究分野を持つが、本学の教育の中心は演奏及び楽曲研究と音楽教育にある。

## 3. 人材の養成と卒業後の進路

本学科が養成をめざす人材は、第1に、芸術と文化を幅広く探究しその深遠な世界を深く理解することを通して深い教養と審美眼を身に付け、楽曲に対する理解を深め演奏技術を磨き、音楽的感動を伝える演奏活動を通して社会に貢献できる人材である。第2に、演奏家としての能力に加え音楽教育についての理解を深め指導技術を身に付け、次世代に音楽活動を指導する人材である。第3に、広く文化を学ぶとともに音楽史の理解と楽曲分析を通して身に付けた音楽的素養を基礎に、音楽を真に享受する能力を育み、現代社会と向き合い自らの感性に基づく創造活動に取り組む人材である。

以上の3類型の人材のほかに、音楽芸術教育の人格陶冶機能に着目し、演奏活動を通して鍛えた豊かな感性と自己を律する強い精神力と芸術作品と芸術活動への深い理解に基づく洞察力を活かし、社会の様々な分野で活躍しうる人材の養成をめざす。

卒業後の具体的な進路としては、演奏家、中学校・高等学校などの音楽教員、音楽教室講師、ピアノ教師、合唱・吹奏楽等指導者、あるいは、そのような道をめざしての大学院進学。さらに、音楽事務所、交響楽団・オペラ事務局、TVキャスター、声優。その他一般企業、公務員などである。

## イ 学部、学科の特色

本学は、中央教育審議会の言う「高度専門職業人育成」と「幅広い職業人育成」を社会的役割としている。本学のこの枠割りを踏まえ、音楽芸術学科の特色を次の諸点に求める。

- 1) 音楽に限らず美術を含む芸術の歴史を学ぶとともに芸術を鑑賞する態度と能力を身につけ、学生が芸術性を磨き豊かな演奏の基盤を作ること。
- 2) 個人レッスンを軸に多様な授業科目を設け、学生の演奏技術を磨くこと。特に、個人レッスンが閉鎖的なものにならないよう、専任教員がそれぞれの専門性を活かし学科全体の力で一

人ひとりの学生を育てること。

- 3) 定期演奏会、卒業演奏会、セントラル愛知交響楽団と本学学生ソリストとのガラコンサート、学生の個人リサイタルなど学生の発表機会を多様に設けること。
- 4) 学生一人ひとりの進路に応じ、「演奏家育成プログラム」「音楽教諭育成プログラム」「ピアノ指導者育成プログラム」という3つのプログラムを履修モデルとして示し、在学中に職業人としての基礎を学生に培うこと。

## ウ 学科等の名称及び学位の名称

学科名称は「音楽芸術学科」(英語名称、Department of Music Art)、学位は「学士(音楽芸術)」(英語名称、Bachelor of Music Art)である。

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1) 幅広く深い教養を身につける

「建学の精神を学ぶ科目」「現代社会の基礎となる科目」「幅広く教養を身につける科目」など本学の共通科目において幅広い教養を身につけるとともに、文学部共通科目「文学部リベラルアーツ」を学科専門科目(展開科目B・C)に配置し、「ヨーロッパの文化と芸術」「西洋美術史」「音楽鑑賞」「美術鑑賞」など西洋音楽を生み出したヨーロッパの文化と芸術を学ぶための授業科目を学生は修得する。

### 2) 音楽理論を学び、演奏技術を磨く

「芸術学」「西洋音楽史」「ピアノ音楽史」「作曲学」「和声」「古典舞踏」など音楽理論と実技を学ぶとともに、「ピアノ奏法」「声楽」「管楽器奏法」の個人レッスンを基礎に「特別公開レッスン」「ピアニスト育成特別レッスン」「ピアノアンサンブル」「室内楽アンサンブル」「声楽アンサンブル」など演奏技術を学ぶ科目を充実した。「ピアニストのための脱力法」「エクスペリメンタルトレーニング」「リトミック」演奏を支えるためのトレーニング科目を開設する。

### 3) 職業人としての基礎を培う

学生のめざす職業で生きる実践的な能力を育てる授業科目を配置し、将来の進路に応じた3つの「プログラム」を履修モデル(**【資料2】**)として整備した。

「演奏家育成プログラム」の一番の特徴は、個人レッスンの教員以外の教員の指導を受けられることである。音楽大学では、普通、学生を指導する教員は一人に決まり、それ以外の教員が指導しにくい状況が生まれている。大学は、まるで「個人レッスンの集合体」のようである。個人レッスンは一人の教員が責任を持って教えるが、2)で述べた「ピアニスト育成特別レッスン」「特別公開レッスン」の授業や、演奏会の準備など学科教員が一丸となって一人ひとりの学生を育てる。

「音楽教員育成プログラム」は、中学高校の音楽教員を目指す学生のための授業科目で構

成し、学校現場で使える「合唱指導法」、「吹奏楽指導法」、「エクスペリメンタルトレーニング」、「指揮法」、「編曲法」などの授業が、指導力を持った教員として真に活躍できる力を養う。

「ピアノ指導者育成プログラム」は、ヤマハやカワイ等楽器店の講師や自宅でピアノ教室を開業したい学生のための授業科目で構成している。「即興演奏」「ピアノ応用演奏(個人レッスン)」はヤマハ・カワイのグレード取得を強力にサポートする授業で、卒業までに指導者資格の最上級である3級の取得をめざす。「ピアノ教室レッスン実習」は、ピアノ教室でのインターンシップで、指導の現場でピアノやソルフェージュの指導実習を行う授業である。

## 2. 科目構成

### (1) 共通教育科目

本学の共通教育科目は、【建学の精神を学ぶ科目】【現代社会の基礎となる科目】【幅広く教養を身につける科目】【現代社会に必要なリテラシーを身につける科目】【スポーツを通じて健康増進を図る科目】【アクティブ・ラーニング科目】の6つの科目領域からなる。

【建学の精神を学ぶ科目】領域は、本学に入学した学生全員に、本学学生としてのアイデンティティを培うことを目的とし、「キリスト教」「女性」「国際理解」の3つのテーマに関する科目から構成されている。その根幹をなすキリスト教の基礎を学ぶ「キリスト教学(1)(2)」は、本学の全学生必修である。

【現代社会の基礎となる科目】領域は、「教養基礎科目」群から成り、現代社会を良く生きるための基本的な教養科目(「哲学」「倫理学」「日本国憲法」など)を配置して、学士力の言う教養の基礎を学ばせることを目的とする。

【幅広く教養を身につける科目】領域は、「教養展開科目」群から成り、学生の入学した学科にかかわらず広く他分野にわたる学問を理解し、視野を拓き豊かな教養を身につけられるようにすることを目的とする。

【現代社会に必要なリテラシーを身につける科目】領域は、「英語教育科目」、「外国語教育科目」、「情報教育科目」、「キャリア開発教育科目」という科目群から成る。「英語教育科目」は、国際的なコミュニケーション能力の基盤の学修をねらいとする科目である。入学時に行われるブレースメント・テストの結果で習熟度別クラス編成を行い、学生の英語力の確保を行っている。「外国語教育科目」では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語、などの会話中心の授業が行われている。「情報教育科目」には、コンピュータの基礎を習得した学生がIT活用技術をさらに学ぶための科目が設けられている。「キャリア開発教育科目」とは、学生の自己の特性の理解と関連させながら、社会で働くということの理解と自らの進路について考えることを支援するための科目である。特に女子大である本学は、女性のキャリア支援という観点から科目内容を吟味し構成している。キャリア開発の意義から始まって、選択ではあるが3年次のインターンシップまで学生のおかれている時期に合わせて授業が配置されている。

【スポーツを通じて健康増進を図る科目】領域は、「S&E 教育科目」群から成り、健康の維持とともにスポーツを通じた協調性の育成なども含めて運営されている。

【アクティブ・ラーニング科目】領域は、「プロジェクト科目」群から成り、「海外研修A～E」「異文化体験」「ボランティア活動」「学生プロジェクト」といった科目が設けられている。これらは、学生が自主的に企画し、教員の指導のもと活動し、単位を取得できる科目である。

## (2) 専門教育科目

専門教育科目は、基礎科目、基幹科目、演習科目、展開科目で構成する。

### ① 基礎科目

基礎科目は、音楽芸術の基礎をなす、「芸術学」「ソルフェージュ」「音楽理論」「西洋音楽史 A・B」で構成する。いずれも必修科目である。

### ② 基幹科目

本学科は、ピアノコース・声楽コース・管楽器コースを置き、学生はいずれかのコースに所属する。それぞれのコースごとに「ピアノ奏法(1)」～「ピアノ奏法(8)」、「声楽(1)」～「声楽(8)」、「管楽器奏法(1)」～「管楽器法(8)」(いずれも8科目・16単位の授業科目)を置き、45分の個人レッスンを行う。そのうち、必修は12単位である。

### ③ 演習科目

3・4年生には、演習科目として、「音楽芸術学演習(1)」～「音楽芸術学演習(4)」を必修で課し、幅広く音楽の素養を磨く。また、「卒業演奏・卒業作品・卒業論文」(6単位)は選択である。

### ④ 展開科目

展開科目は、A群49科目、B群29科目、C群21科目で構成する。なお、展開科目B群とC群は、「文学部リベラルアーツ」と教職課程の「教科に関する科目」2科目で構成する。

A群(音楽理論・音楽実技)は、基礎科目・基幹科目の上に、音楽理論と実技を学び演奏技術を高めるための授業科目群である。B群(文化・鑑賞)は、西洋音楽の基礎をなす西洋文化を学ぶとともに音楽や美術を鑑賞し芸術性を培う授業科目群である。C群(教養)は、幅広く教養を深め芸術性を陶冶するための科目群である。

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成の基本的な考え方は、演奏・作曲・指揮など音楽活動に実績を持つとともに、教育に関する実績を持ち指導力のある教員で編成することである。「ピアノ奏法」などの担当には多くの兼任教員を必要とするが、上述の基本的な考え方は、専任教員はもとより兼任教員の配置においても貫きたい。

専任教員の構成は、ピアノ3名、声楽1名、管楽器1名、作曲1名、指揮1名、西洋美術史1名である。実技系の教員配置は、概ねピアノ・声楽・管楽器の専攻学生に対応したもので、1名の

専門を西洋美術史としたのは、本学科が芸術性の陶冶を重視するからである。

年齢構成は、三十歳代3名、五十歳代3名、六十歳代2名で、男女の比率は、男性7名、女性1名である。

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### 1. 卒業要件

卒業要件単位数は、共通教育科目28単位以上、専門教育科目70単位以上を取得し、合わせて124単位を取得することである。

共通教育科目・専門教育科目、それぞれの履修方法を以下に示す。

#### ①共通教育科目

【下表】の通りである。

領域		単位数		備考	
		必修	選択		
共通教育科目	I 建学の精神を学ぶ科目	テーマ①「キリスト教」	4	○	○3テーマから2テーマにわたって4単位
		テーマ②「女性」		○	
		テーマ③「国際理解」		○	
	II 現代社会の教養の基礎となる科目	④ 教養基礎科目		4	●5つの科目群から3単位
	III 幅広く教養を身につける科目	⑤ 教養展開科目		●	
	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑥ 英語教育科目	8		
		⑦ 外国語教育科目		●	
		⑧ 情報教育科目		●	
	V スポーツを通じて健康増進を図る科目	⑩ S&E教育科目		2	
	VI アクティブ・ラーニング科目	⑪ プロジェクト科目		●	
	計		15	13	
合計		28			

#### ②専門教育科目

本学科は、ピアノコース・声楽コース・管楽器コースから成るコース制とし、学科の必修科目とは別にコースごとの必修科目を設ける。

専門科目の卒業要件は次に示す授業科目群ごとの条件を満たし、70単位以上の単位取得することである。

- 1) 基礎科目 10単位(いずれも必修科目)
- 2) 基幹科目 12単位(いずれもコース必修科目)
- 3) 演習科目 4単位(いずれも必修科目)
- 4) 展開科目 40単位(選択必修科目とコース必修科目の修得、展開科目A群から10単位以上修得、展開科目B群から10単位以上修得を条件とする)

## 2. 配当年次(各年次の科目配当を【資料1】に示す)

必修である基礎科目は、1年次と2年次に配当した。基本的には1年次の配当だが、たとえば「西洋音楽史A」「西洋音楽史B」を2年次に配当したのは、高等学校で音楽史を学んでない学生が、1年次に展開科目の「音楽史入門」を履修してから学べるように配慮したからである。

展開科目は、個人レッスンの授業で、1年次から4年次まで配当した。

演習科目は、2年次までの学習をさらに深めるために3年次と4年次に配当した。

展開科目は、1年次から4年次まで配当した。基本的な考え方は、基礎的なものを1年次に発展的な内容を上級年次に配当するものであるが、とくに次の点に配慮した。第1に、「指揮法A」(2年次)「指揮法B」(3年次)のように積み上げる授業はその順次性を確保できるようにした。第2に、「合唱」(1年次)と「合唱指導法」(2年次)の場合など内容的に見て効果的に履修できるよう配慮して配当した。第3に、「特別公開レッスン」などは履修の便宜に配慮し3年次・4年次に配当した。

## 3. 履修指導

本学は、新入生のための入学オリエンテーションと在生学生のための在生学生オリエンテーションを4月と9月の学期開始時に実施している。このオリエンテーションにおいて、卒業要件、履修モデル、履修方法、履修上の注意などを説明している。また、本学はアドバイザー制度を取り、各学期に少なくとも1度の面談をすべての学生と行っている。アドバイザーは担当学生の成績を熟知するとともに、学生の興味や進路の希望などを把握し適切なアドバイスを行っている。

## 4. 授業の方法等

講義・実習・演習と多様な授業形態をとるが、特徴的な授業形態は次の諸点である。

第1に、「ピアニスト育成特別レッスン」では、個人レッスンの授業者とは別の二人のピアノを専門とする教員と一人の指揮を専門とする教員が、それぞれの専門性を活かしてオムニバスの授業を行う。

第2に、「ピアノアンサンブル」の授業はプロのバイオリニストが授業を担当するが、学生はこの授業担当者とアンサンブルを行うことを通して指導を受ける。

第3に、音楽鑑賞等の授業では、DVD等を利用した教室の授業だけではなく、演奏等の上演会場や提携を結んでいるセントラル愛交響楽団のリハーサルに実際にでかけて鑑賞・見学する機会を設ける。美術鑑賞でも同様に、美術館での鑑賞を授業に取り入れる。

## 5. 履修モデル(各履修モデルを【資料2】に示す)

## キ 施設、設備等の整備計画

### 1. 校地、運動場の整備計画

本学は、名古屋市の中心地である栄から15km足らずの北東部に位置し、丘陵地帯が広がる起伏にとんだ地形に自然を活かして設置されている。

栄から大学まで直通の電車が通っており、所要時間は15分である。通学時間帯には、5分間隔で運行されており、非常に便利である。

校地面積は207,759㎡ある。運動場は、2,914㎡、環境に配慮し、全面天然芝になっている。ここでは、小学校課程における体育指導の実習を始め共通教育科目のスポーツ・アンド・エクササイズ等での利用等多目的に利用している。その他、全天候型テニスコート7面、バレーボールコート4面、打席数17席、824㎡のゴルフ練習場及び5,706㎡の体育館を設置している。

校舎間の通路に植栽を整備するとともに学生が休憩できる椅子等を配置している。また、聖書の庭として、聖書に出てくる草花を植栽し、学生が憩うことができるよう整備している。

### 2. 校舎等設備の整備計画

文学部音楽芸術学科は、既存の人間科学部芸術・芸術療法学科を基礎に設置するため、増築は検討していない。既存の校舎等は24棟あり、総面積は73,818㎡である。講義室は、68室あり、使用率は52.4%（2011年度）、演習室は46室あり（他に学科等専用演習室34室）、使用率は30.0%（2011年度）であり、全体に余裕のある使用状況となっている。視聴覚資料を使った授業が増加しており、150名以上の講義室にはほとんどビデオプロジェクター等視聴覚機器を配置している。また、プロジェクターの種類もパソコンをつないで直接資料を投影できるものになっている。

演習室にも移動式の視聴覚機器を74.4%配置している。移動式であるため、配置割合以上に各教員の要望を満たしていることになる。

CALL教室は3室あり、平均使用率は42.6%（2011年度）である。それ以外に自習室が2室あり、英語を中心としたリスニング、各種検定試験模擬問題を行い、課題作成ができるようになっている。1室には実務助手とは別にTAが常駐しており、英語に関する質問に答えている。

コンピュータ教室は11室（558台配置）あり、平均使用率は43.4%（2011年度）である。それ以外に自習室が2室（43台配置）ある。

音楽芸術学科では特に学生が自由に使用できるピアノ等の楽器の練習設備が求められるが、

これについても、既設の人間科学部芸術・芸術学科で必要となる施設を備えており、ピアノレッスン室が15室(ピアノ23台配置)、音楽練習室が16室(ピアノ15台、電子ピアノ6台配置)ある。

研究室は1室30㎡を基準に設置しており、1人1室確保している。それ以外に共同研究1室を設置している。

### 3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

#### (1) 図書等の整備について

2012年4月1日現在、5学部2専攻のための資料として、図書約52万冊、学術雑誌等は約7,600種、DVD等の視聴覚資料は約1,100点を所蔵しており、蔵書は年間約10,000冊のペースで増加している。今回設置を予定している文学部音楽芸術学科の関連分野の資料は、図書約11,500冊、雑誌約140種、視聴覚資料約1,100点を所蔵し、関連性の高い学術雑誌として、国内雑誌13種、国外雑誌6種を継続購入していく予定である。【資料4】音楽芸術学科の前身である人間科学部芸術・芸術療法学科は、2002年の設置以来、年平均150冊の専門図書を新規購入しており、今後も研究・学習のニーズに応えられるよう十分な資料整備を行っていく予定である。その他、電子資料として、現在21種のデータベースと、12種の電子ジャーナルを導入しており、音楽芸術関係の電子書籍Oxford Music Onlineやオンライン音楽配信サービスのNAXOS Music Libraryの導入も行っている。全文閲覧可能な電子ジャーナルには、1,000タイトル以上の学術雑誌が収録されており、図書館内外からの利用が可能となっている。電子媒体の資料も積極的に導入していく計画である。

#### (2) 図書館の整備等について

本学図書館は、閲覧室4階、書庫6階で構成され、閲覧室・書庫ともに全館開架方式をとっており、ほとんどの資料を利用者が自由に手にすることが可能であり、個別ブースや可動式のグループ学習コーナー、大型モニターを備えた視聴覚用のグループブース等、幅広いニーズに対応した学習環境を提供している。また、学科の参考図書を配備する指定図書コーナーや、留学用資料コーナーなど、利用者の目的に応じた資料配置を整備していく方針である。授業開始前と授業終了後に利用できるよう、平日は8時30分から20時まで開館し、閲覧席数は、566席で全学生数の10%を確保している。蔵書は100%データベース化(電算化)され、図書館OPACにてすべての蔵書が検索可能となっている。また、契約している各種データベースから本学OPACへの連携も行っており、効率的な資料検索が可能になるよう更に環境整備を進めていく予定である。

### (3)他大学図書館等の協力について

私立大学図書館協会に加盟し、東海地区の加盟館同士は、学生証の提示で相互に利用が可能となっている。また、東海地区図書館協議会に加盟し、国公立大学や、公共図書館との協力・連携も図っている。文献複写・相互貸借については、国立情報学研究所のNACSIS-ILLの料金相殺サービスに参画し、本学に資料がない場合でも、全国の研究機関からの文献入手が可能となっている。国外では、OCLCのグローバルILLへの参加やBritish Libraryへの資料請求等によって、海外からの文献入手の手段も確保している。

## ク 入学者の選抜方法

(音楽芸術学科アドミッション・ポリシー)

音楽芸術学科では、以下のような学生を求めています。

1. 音楽芸術を深く愛する学生
2. 音楽芸術の実技に真剣に取り組み、品格と豊かな感性を備えた学生
3. 音楽芸術作品を理解すべく、その構造、歴史的背景、作曲家・作品の意図の把握に強い学習意欲を持つ学生
4. 音楽芸術が人々の幸福に貢献すると信ずる学生

以上の項目を念頭におき、入学時までに音楽実技、基本的音楽理論とソルフェージュ能力を身につけておいてください。

このアドミッション・ポリシーに沿って、本学科の実施する入学者選抜は、以下の通りである。

- ①一般入試:2月の前期入試と3月の後期入試に分けて2回行う。前期入試では、本学出題の国語もしくは外国語(英語)のいずれか1科目と音楽。後期入試は音楽のみである。これらを合わせて、入学定員に対して約45%程度を予定している。
- ②推薦入試:11月後半に行う。指定校制と公募制の2種類に分かれて行われる。これらを合わせて、入学定員に対して約40%を予定している。
- ③センター試験利用入試:センター試験を利用する試験は前期と後期の2回に分かれている。また、センター試験と本学独自の試験を合わせて合否判定する形式のセンタープラス方式入試も実施している。これらを合わせて、入学定員に対して約15%を予定している。

それぞれの試験の目的は、本学へ入学してからの学習に対する準備を見ることであるが、調査書の内容を加えて総合的に判断している。

そのほかの試験形式の募集人数はいずれも若干名であるが、出願資格等は下記の表2の通りである。

表2. その他の入学試験の条件等

試験種別	出願資格	試験内容
社会人入試	高等学校もしくは中等教育学校を卒業、または同等以上の学力があると認められる者で、入学年度の4月1日現在で満23歳以上の女子	・音楽 ・面接
外国人留学生入試	<p>外国籍を有する女子で以下の(1)～(3)のすべてに該当するもの。</p> <p>(1)外国における学校教育の12年の課程を修了した者、もしくは入学年の3月末日までに修了見込みの者。または、これと同等以上の資格があると認められる者。ただし、学校教育12年の課程を外国の学校と日本の学校において修了した場合、日本の学校で教育を受けた期間が6年以内である者はこれを含むものとする。</p> <p>(2)入学後の授業を受けるのに十分な日本語能力を有する者。</p> <p>(3)入国目的が「出入国管理及び難民認定法」による留学の在留資格に該当する目的であり、本学での勉学を強く希望する者</p>	・日本語小論文 ・音楽 ・面接
海外帰国子女入試	保護者の海外在留という事情により、外国の教育を受けた日本国籍を有する女子、または日本に永住許可を得ている女子。(入学予定年度の4月1日現在)	・音楽 ・面接

## ケ 取得を目指す資格

- ・高等学校教諭1種免許状(音楽)
- ・中学校教諭1種免許状(音楽)

## コ 実習の具体的計画

本学専任教員と交流のあるピアノ指導者の主宰する音楽教室と契約を結び、学生の実習を委託する。【資料3】

事前指導では、ブルグミュラーの中級レベルの曲などを素材に楽曲分析を行い模範となる演奏ができること、模擬レッスンをを行い実際の指導法や生徒とのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目標にする。

実習では、音楽教室の指導者のレッスンを参観し、生徒の年齢や演奏のレベルに応じた指導の方法を学ぶとともに、レッスン前後の生徒とのコミュニケーションの在り方、レッスンを支える諸実務の実際を学ぶ。また、教室指導者の指導を得て、指導実習に取り組む。

事後指導では、実習を振り返りそれぞれの学びを交流するとともに、担当教員が敢えて不完全な演奏を行い、その演奏に対する指導を学生に求める。

## サ 企業実習や海外語学研修など学外実習の具体的計画

### 1. 企業実習(インターンシップ)

本学では、実際の職場体験を通じて、組織の仕組みや業務の流れ、ビジネスマナーなどへの理解を深め、職業選択や就職後の職業生活に役立てることを目的として、1999年より一部の学部において、2004年度からは全学的にインターンシップを実施している。インターンシップを希望する学生は3年次に「キャリア開発G(2)」という科目を履修し、事前指導(5回)、2週間の企業実習、実習報告書の作成と報告会への出席、これら全てを完了することによって2単位を取得することができる。2004年度以降、人間科学部芸術・芸術療法学科の学生は一定数インターンシップに参加してきた。これまでのインターンシップ参加人数を大学全体と芸術・芸術療法学科で示すと以下ようになる。

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
大学全体	206	206	227	236	256	233	254
芸術・芸術療法学科	9	8	12	8	3	5	8

## 2. 海外研修

本学では下記の6大学との間で協定に基づく定期的な語学研修を行っている。6大学におけるこれまでの実績は次に示すとおりである。

・ゴンザガ大学(アメリカ:2004年度より)

隔年8月に約3週間の研修、平均15名参加

・ロンドン・メトロポリタン大学(イギリス:2006年度より)

隔年8月に約3週間の研修、平均25名参加

・吉林大学(中国:1999年度より)

毎年8月に約3週間の研修、平均15名参加

・タスマニア大学(オーストラリア:1999年度より)

毎年2月に約4週間の研修、平均25名参加

・トゥールーズ・ル・ミライユ大学(フランス:2008年度より)

隔年8月に約4週間の研修、平均25名参加

・フライブルク大学(ドイツ:2009年度より)

隔年8月に約3週間の研修、平均15名参加

上記の研修にあたっては原則として専任教員または事務職員1名が往復路付き添う。その上で受け入れ大学の所定のプログラムを履修し、先方の担当者の評価を得る。

上記の研修への参加が決定した学生は、共通教育科目「海外研修A～E」の履修登録が認められ、「海外研修」の担当教員が先方の評価に基づき成績評価を行う。

また、学生が上記以外の短期研修を行う場合、学生の申請に基づきその内容を「海外研修」の担当教員が承認すれば「海外研修」の履修が認められ、研修終了後の報告に基づき成績評価がなされる。

## ス 編入学の具体的計画

一般編入学については、若干名の入学を受け入れる。その試験については7月初旬に行う予定であり、英語、音楽の試験を課す。

社会人編入学については、若干名の入学を受け入れる。その試験については、I期は7月初旬、II期は、12月初旬にそれぞれ行う予定であり、音楽の試験を課す。

入学年次は、3年次である。

入学生の既修得の単位認定については、共通教育科目等については包括的に認定している

が、専門教育科目については、科目名称が同一であること、もしくは、科目名称が異なっているが、内容が同等と考えられる科目については認定を行う。ただし、本学の独自性をあらわすような科目については、新たに履修することを指導することがある。

## ツ 管理運営

本学は、全学的な意思決定機関として学則第61条に基づき、大学評議会を設置している。大学評議会は、学長、各学部長、各研究科長、全学役職者、各学部から選出された2名ずつの評議員によって構成されるとともに、大学事務部長ならびに各部の長5名が陪席し、毎月開催されている。全学が関わりをもつ規程類の制定・改廃はこの大学評議会で行われる。大学評議会の議事録は学内情報ネットワークを經由して公開されるとともに、各学部においても審議内容を報告することを義務づけており、全学審議機関と各教員との連携を図っている。

学部固有の意思決定は学則第59条に基づき、教授会で行う。構成員は、学部には所属する教授、准教授、講師で毎月開催されている。審議すべき事項は学則第60条に記載してあるが、学生の身分に関する事項、教育課程や成績評価に関する事項、入学判定に関する事項、教員の身分に関する事項、学部の運営に関する事項などである。教授会の運営は教授会規程に基づいてなされている。

上述のとおり、学部の規程は学部自治権を尊重して独自に制定され、その中でカリキュラム変更、教員の任用等が学部の判断で行われている。しかし、同時にそうした行為において学部間の不合理なずれが生じないように、大学評議会や全学委員会、さらには協議機関である学部長会を通して調整が図られている。

教授会の下に委員会を設置し、意思決定が円滑に進むよう配慮している。

### 教務委員会

目的:教務に関する事項を検討する。

構成:教務委員長、委員4名 計5名

### 入試委員会

目的:入試実施に関する事項を検討する。

構成:入試委員長、委員4名 計5名

### 学生生活委員会

目的:学生の就職を含む学生生活及びインターンシップに関する事項を検討する。

構成: 学生生活委員長、委員4名 計5名

#### FD委員会

目的: FDに関する事項を検討する。

構成: 学部長、委員4名、学部長が指名した者3名以内 計8名以内

#### 人事委員会

目的: 専任教員の任用と昇任に関する事項を検討する。

構成: 学部長、委員(教授)4名 計5名

#### 予算委員会

目的: 学部の予算に関する事項を検討する。

構成: 学部長、委員4名 計5名

## テ 自己点検・評価

本学の自己点検・評価は、1994年に、自己評価委員会を設置したことから始まる。規程に定めた40を超える自己点検・評価項目に基づき、毎年度、自己評価委員会は自己点検・評価を行い、報告書を作成してきた。その後、2003年度に大学基準協会の認証評価を受けたが、このことを通して本学は自己評価のシステムを整備し、現在は、次のような2つのスタイルの自己点検・評価を行っている。

第1に、年度ごとに行う1年を周期とする自己点検・評価である。年度当初の自己評価委員会において、前年度の各部署の目標(教育の成果は数値目標)の到達度と点検・評価、改善計画を審議する。その上で、当該年度の目標を定め、目標設定・現状把握・点検評価・改善からなる自己点検・評価のサイクルをつくりだしている。

第2に、認証評価に対応する自己点検・評価である。本学は、原則として7年に1度、認証評価を受けることにしており、7年のスパンで自己点検・評価に取り組むことになる。また、認証評価を受ける7年毎の中間に(3年または4年に1度)、独自に自己点検・評価を行い、認証評価機構の様式にそった自己評価報告書を作成している。ただし、2003年度に続き2007年度にも、本学は大学基準協会の認証評価を受け「適合」と認定された。これは学校教育法の改正を受け、4年後に受けなければならない認証評価を前倒して実施したものである。

認証評価機構に提出した報告書は、『Windows』という冊子にまとめるとともにホームページで公開している(『Windows』は認証評価以前のものを含め、現在まで4号を発行している)。

認証評価は、本学にとって二つの意義を持っている。一つは、認証評価機構の評価項目から学ぶことである。評価項目には、大学の社会的な使命が凝集されている。いま一つは、認証評価機関の審査を受けることによって、本学の自己点検・評価の弱点を知ることができ、自己点検・評価をより客観的なものにするができることである。

## ト 情報の公表

本学では、ステイクホルダーへの情報公開を順次進めている。

アドミッション・ポリシーを初めとし、学納金、奨学金等入学に際して必要な情報は、入試パンフレット又は入試ガイド及びホームページで公開している。

カリキュラム表及び履修方法等は『履修要覧』で、シラバスは冊子及びホームページで学生に知らせている。学則等学生が必要な諸規程は『Printemps』(学生ハンドブック)で知らせている。

教員のプロフィール、研究成果は、ホームページで公開している。

大学の基本的な情報である定員、学生数は、ホームページで公開している。財務状況については、『with Dignity』(在学生父母に送付している学院報)で公開するとともに、ホームページでも公開している。また、自己評価報告書もホームページで公開している。

設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書についても、ホームページで公開している。

## ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学は、2001年度に、学部ごとにFD委員会を設置した。このFD委員会が、各学部の授業内容と方法の改善に取り組んでいる。全学的には、各学部のFD委員会委員長と担当学長補佐がFD連絡会を構成し、各学部のFD活動の交流と全学的な講演会等の開催などに取り組んでいる。

本学のFD活動の中心は、後期授業開始直前に学科ごとに行うFD協議会である。学生の状況の分析、カリキュラムやシラバスの点検、授業分析など多岐に亘るが、学科毎に毎年テーマを決めて行っている。

学生による授業評価については、平成6(1994)年度から実施し、データと教員のコメントを掲載した冊子『VOX POP-学生と教師をつなぐ授業改善レポート』を発行している(現在は隔年発行で、これまで6号を発行)。FD委員会は授業評価のデータを、必要に応じてFDに活用している。

## 二 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### 1. 教育課程内の取組について

本学では共通教育科目の中に、以下の8科目をキャリア開発教育科目群として開設している。特に初年次教育強化の観点から、授業科目「キャリア開発A」と「キャリア開発B」を1年次履修の必修科目としている。これらの授業では、学生が女性としての人生を積極的に切り拓くことができるよう、女性のワークキャリアとライフキャリアに関して多面的に学ぶ。また、インターンシップのための事前学習を授業として位置づけ、十分な準備のもとに学生をインターンシップに送り出すべく工夫している。

科 目 名	開講年次	備 考
キャリア開発 A:キャリア開発の意義と方法	1年次前期	必修
キャリア開発 B:マナー&コミュニケーション	1年次後期	必修
キャリア開発 C:女性の生き方を考える	2年次前期	選択
キャリア開発 D:いきいき働く女性たち	2年次後期	選択
キャリア開発 E:企業人による講話	3年次前期	選択
キャリア開発 F:卒業後の仕事を考える	3年次後期	選択
キャリア開発 G(1):インターンシップ準備	2年次後期	選択
キャリア開発 G(2):インターンシップ	3年次通年	選択

### 2. 教育課程外の取組について

教育課程外では、学生の社会的・職業的自立に関する指導を以下のように全学的に取り組んでいる。

#### (1)アドバイザー制度

本学では2004年度より、学科の教員がアドバイザーとして学生の個別指導に臨んでいる。アドバイザーは学習面、学生生活面のみならずキャリア面での指導にもあたり、学生の問題解決の中心的な支援者として各関係部局との結節点となる。アドバイザーは担当する学生と定期的に面談し、キャリア電子カルテ(Kカルテ)、成績表等を用いてキャリア面での指導に当たっている。

#### (2)専門家によるキャリア相談

2005年12月よりキャリアエール(キャリア支援センター内にあるキャリア相談コーナー)を開設し、職業選択、進学、就職活動などキャリアに関わるあらゆる相談にキャリアカウンセラー(有資格

者)が対応している。年間の利用者数は2000件程度あり、学生から好評を得ている。

### (3) キャリアアップ講座

キャリアアップ講座では、就職活動対策をはじめ多数のキャリア関連講座を展開している。2007年からは、現代のビジネスウーマンに求められる知識やスキルの獲得を奨励する金城ビジネススキル検定(本学オリジナル)を開設している。

### 3. 適切な体制の整備について

本学では、学長のリーダーシップのもとに教員組織(教務委員会、キャリア開発教育科目委員会、インターンシップ委員会、学生生活委員会、自己評価委員会)と職員組織(学生支援部)の関連部署が有機的に連携し、密度の高いネットワークを形成している。教員はアドバイザーとしての役割および教育効果に関する数値目標の設定に関して全員参加の体制をとっている。

## 1年次の配当科目

全単位数：57

科目区分	授業科目の名称	開講期	単位数			
			必修	選択		
基礎科目	ソルフェージュ	後	2			
	音楽理論	前	2			
基幹科目	ピアノ奏法（1）	前		2		
	ピアノ奏法（2）	後		2		
	声楽（1）	前		2		
	声楽（2）	後		2		
	管楽器奏法（1）	前		2		
	管楽器奏法（2）	後		2		
展開科目	A群（音楽理論／音楽実技）	即興演奏A	前		2	
		即興演奏B	後		2	
		合唱	前		2	
		副科ピアノ奏法A	前		1	声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	後		1	声楽・管楽器コース必修
		副科声楽	後		1	ピアノ・管楽器コース必修
		発音法	前		2	声楽コース必修
		ピアニストのための脱力法（1）	後		2	
		エクスペリメンタルトレーニング	後		2	
		古典舞踏	後		2	
	リトミック	後		2		
	B群（文化・鑑賞）	ドイツ語文化入門	前		2	
		フランス語文化入門	前		2	
		西洋音楽史入門	前		2	
		西洋美術史A	前		2	
		西洋美術史B	後		2	
		音楽鑑賞A	前		2	ピアノ・管楽器コース必修
		音楽鑑賞B	後		2	声楽コース必修
	C群（教養）	博物館概論	前		2	
博物館資料論		後		2		
中国語文化入門		前		2		
日本語教育入門		後		2		
単位数合計			4	53		

## 2年次の配当科目

全単位数：91

科目区分	授業科目の名称	開講期	単位数			
			必修	選択		
基礎科目	芸術学	前	2			
	西洋音楽史A	前	2			
	西洋音楽史B	後	2			
基幹科目	ピアノ奏法（3）	前		2		
	ピアノ奏法（4）	後		2		
	声楽（3）	前		2		
	声楽（4）	後		2		
	管楽器奏法（3）	前		2		
	管楽器奏法（4）	後		2		
展開科目	A群（音楽理論／音楽実技）	和声	前		2	
		編曲法（1）	前		2	
		編曲法（2）	後		2	
		指揮法A	前		2	
		合唱指導法	後		2	
		副科管楽器	前		1	
		ピアノアンサンブルA	前		2	
		ピアノアンサンブルB	後		2	
		声楽アンサンブルA	前		2	
		声楽アンサンブルB	後		2	
		管楽アンサンブルA	前		2	
		管楽アンサンブルB	後		2	
		ピアニストのための脱力法（2）	前		2	
		声楽伴奏演習	後		2	ピアノコース必修
		ピアニスト育成特別レッスンA（1）	前		1	
	ピアニスト育成特別レッスンA（2）	後		1		
	ピアノ応用演奏A	前		1		
	ピアノ応用演奏B	後		1		
	ピアノメソッド概論	後		2		
	B群（文化・鑑賞）	ヨーロッパの文化と芸術	後		2	
		南欧文化入門	前		2	
		イタリア語入門（1）	前		1	声楽コース必修
		イタリア語入門（2）	後		1	声楽コース必修
		英米文化研究A	前		2	
		英米文化研究C	前		2	
		イギリス文化概論	前		2	
		アメリカ文化概論	前		2	
西洋美術史C		前		2		
西洋美術史D		後		2		
音楽鑑賞C		前		2		
音楽鑑賞D		後		2		
C群（教養）	金城シネマ	前		2		
	生涯学習概論	前		2		
	博物館資料保存論	前		2		
	博物館展示論	後		2		
	英語による日本文化	前		2		
	Cross-Cultural Communication	前		2		
	世界と日本のクラシック	後		2		
	日本語教育法A（1）	前		2		
	日本語教育法A（2）	後		2		
単位数合計			6	85		

## 3年次の配当科目

全単位数：78

科目区分		授業科目の名称	開講期	単位数		
				必修	選択	
基幹科目		ピアノ奏法（5）	前		2	
		ピアノ奏法（6）	後		2	
		声楽（5）	前		2	
		声楽（6）	後		2	
		管楽器奏法（5）	前		2	
		管楽器奏法（6）	後		2	
演習科目		音楽芸術学演習（1）	前	1		
		音楽芸術学演習（2）	後	1		
展開科目	A群（音楽理論／音楽実技）	作曲学	前		2	
		指揮法B	後		2	
		ピアノ音楽史	前		2	ピアノコース必修
		吹奏楽指導法	後		2	管楽器コース必修
		室内アンサンブルA	前		2	
		室内アンサンブルB	後		2	
		声楽アンサンブルC	前		2	
		声楽アンサンブルD	後		2	
		管楽アンサンブルC	前		2	
		管楽アンサンブルD	後		2	
		邦楽A	前		1	
		邦楽B	前		1	
		特別公開レッスン	通		2	
		ピアニスト育成特別レッスンB（1）	前		1	
		ピアニスト育成特別レッスンB（2）	後		1	
		ピアノ応用演奏C	前		1	
		ピアノ応用演奏D	後		1	
		ピアノ教室レッスン実習	前		2	
	B群（文化・鑑賞）	英米文学研究C	前		2	
		英米文学研究D	後		2	
		海外の日本文化研究	前		2	
		美術鑑賞A	前		2	
		美術鑑賞B	後		2	
		音楽と文学A	前		2	管楽器コース必修
		音楽と文学B	後		2	声楽コース必修
		日本音楽論	前		2	
		民族音楽論	後		2	
		音楽鑑賞E	後		2	
	C群（教養）	民族と芸術	後		2	
		博物館経営論	前		2	
		博物館情報・メディア論	後		2	
		博物館教育論	後		2	
		日本の多文化事情	前		2	
		日本語教育法B（1）	前		2	
		日本語教育法B（2）	後		2	
単位数合計				2	76	

## 4年次の配当科目

全単位数：23

科目区分	授業科目の名称	開講期	単位数	
			必修	選択
基幹科目	ピアノ奏法（7）	前		2
	ピアノ奏法（8）	後		2
	声楽（7）	前		2
	声楽（8）	後		2
	管楽器奏法（7）	前		2
	管楽器奏法（8）	後		2
演習科目	音楽芸術学演習（3）	前	1	
	音楽芸術学演習（4）	後	1	
	卒業演奏・卒業作品・卒業論文	通		6
展開科目	A群（音楽理論／音楽実技）	前		1
	C群（教養）	前		2
単位数合計			2	21

設置の趣旨【資料2】

履修モデルA ピアノコースで演奏家を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学(1)	1前	2			
	キリスト教学(2)	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	グローバル・スタディーズ	1・2・3・4 前後		2		
	哲学	1・2・3・4 前後		2		
	文学	1・2・3・4 前後		2		
	英語コミュニケーションA(1)	1前	1			
	英語コミュニケーションA(2)	1後	1			
	英語コミュニケーションB(1)	1前	1			
	英語コミュニケーションB(2)	1後	1			
	英語コミュニケーションC(1)	2前	1			
	英語コミュニケーションC(2)	2後	1			
	英語コミュニケーションD(1)	2前	1			
	英語コミュニケーションD(2)	2後	1			
	ドイツ語会話(1)	1前		1		
	ドイツ語会話(2)	1後		1		
	ドイツ語会話(3)	2前		1		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2 前後		1		
スポーツ・アンド・エクササイズH	3・4 前後		1			
共通教育科目計		—	15	13	28	
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフェージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
		小計	—	10	0	10
	基幹科目	ピアノ奏法(1)	1前		2	ピアノコース12単位必修
		ピアノ奏法(2)	1後		2	
		ピアノ奏法(3)	2前		2	
		ピアノ奏法(4)	2後		2	
		ピアノ奏法(5)	3前		2	
		ピアノ奏法(6)	3後		2	
		ピアノ奏法(7)	4前		2	
		ピアノ奏法(8)	4後		2	
	小計	—	0	16	16	
演習科目	音楽芸術学演習(1)	3前	1			
	音楽芸術学演習(2)	3後	1			
	音楽芸術学演習(3)	4前	1			
	音楽芸術学演習(4)	4後	1			
	卒業演奏・卒業作品・卒業論文	4通		6		
	小計	—	4	6	10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				
			必修	選択	合計		
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 ／音楽実技)	和声	2前		2		
		ピアノ音楽史	3前		2		ピアノコース必修
		副科声楽	1後		1		ピアノ・管楽器コース必修
		ピアノアンサンブルA	2前		2		
		ピアノアンサンブルB	2後		2		
		室内アンサンブルA	3・4前		2		
		室内アンサンブルB	3・4後		2		
		ピアニストのための脱力法(1)	1後		2		
		ピアニストのための脱力法(2)	2前		2		
		特別公開レッスン	3・4通		2		集中
		声楽伴奏演習	2後		2		ピアノコース必修
		ピアニスト育成特別レッスンA(1)	2前		1		
		ピアニスト育成特別レッスンA(2)	2後		1		
		ピアニスト育成特別レッスンB(1)	3前		1		
		ピアニスト育成特別レッスンB(2)	3後		1		
古典舞踏	1・2後		2		集中		
B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2			
	ドイツ語文化入門	1前		2			
	フランス語文化入門	1前		2			
	西洋美術史C	2前		2			
	音楽と文学A	3前		2			
	音楽鑑賞A	1前		2		ピアノ・管楽器コース必修	
C群(教養)	世界と日本のクラシック	2後		2			
	小計	—	0	41	41		
専門教育科目計				14	63	77	
自由履修	国際関係	1・2・3・4前後		2			
	多文化共生社会	1・2・3・4後		2			
	ドイツ語会話(4)	2後		1			
	フランス語会話(1)	1前		1			
	フランス語会話(2)	1後		1			
	フランス語会話(3)	2前		1			
	フランス語会話(4)	2後		1			
	即興演奏B	1後		2			
	指揮法A	2前		2			
	エクスペリメンタルトレーニング	1後		2			
	音楽と文学B	3後		2			
	音楽鑑賞B	1後		2			
	自由履修計		0	19	19		
合計			29	95	124		
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目10単位、展開科目A27単位、展開科目B12単位、展開科目C2単位、合計77単位。なお、専門科目のうち7単位は自由履修分に充てる。							

履修モデルB ピアノコースで教職を目指す例

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学 (1)	1前	2			
	キリスト教学 (2)	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	歴史の中の女性	1・2・3・4 前後		2		
	倫理学	1・2・3・4 前後		2		
	日本国憲法	1・2・3・4 前後		2		
	健康科学	1・2・3・4前		2		
	英語コミュニケーションA (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションA (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションB (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションB (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションC (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションC (2)	2後	1			
	英語コミュニケーションD (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションD (2)	2後	1			
	IT活用A	1・2・3・4 前後		2		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズE	1・2 前後		1		
	スポーツ・アンド・エクササイズG	1・2・3・4 前後		1		
共通教育科目計	—		15	14	29	
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフェージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
	小計	—		10	0	10
	基幹科目	ピアノ奏法 (1)	1前		2	ピアノコース12単位 必修
		ピアノ奏法 (2)	1後		2	
		ピアノ奏法 (3)	2前		2	
		ピアノ奏法 (4)	2後		2	
		ピアノ奏法 (5)	3前		2	
		ピアノ奏法 (6)	3後		2	
		ピアノ奏法 (7)	4前		2	
		ピアノ奏法 (8)	4後		2	
	小計	—		0	16	16
演習科目	音楽芸術学演習 (1)	3前	1			
	音楽芸術学演習 (2)	3後	1			
	音楽芸術学演習 (3)	4前	1			
	音楽芸術学演習 (4)	4後	1			
	小計	—		4	0	4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前		2	
		編曲法(1)	2前		2	
		編曲法(2)	2後		2	
		作曲学	3前		2	
		指揮法A	2前		2	
		指揮法B	3後		2	
		合唱	1前		2	
		合唱指導法	2後		2	
		ピアノ音楽史	3前		2	ピアノコース必修
		吹奏楽指導法	3後		2	
		副科声楽	1後		1	ピアノ・管楽器コース必修
		副科管楽器	2前		1	
		邦楽A	3前		1	集中
		邦楽B	3前		1	集中
		発音法	1前		2	
エクスペリメンツトレーニング	1後		2			
声楽伴奏演習	2後		2	ピアノコース必修		
B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2		
	西洋美術史C	2前		2		
	日本音楽論	3前		2		
	民族音楽論	3後		2		
	音楽鑑賞A	1前		2	ピアノ・管楽器コース必修	
	音楽鑑賞C	2前		2		
C群(教養)	世界と日本のクラシック	2後		2		
	小計	—	0	46	46	
専門教育科目計			14	62	76	
教職に関する科目	教職入門	1・2・3・4後		2		
	学校と教育の歴史	1・2・3・4前		2		
	教育制度論	1前		2		
	教育課程論	3前		2		
	音楽科教育の研究A	2通		4		
	音楽科教育の研究B	2・3後		2		
	音楽科教育の研究C	2・3後		2		
	道德教育の理論と方法	3後		2		
	特別活動の指導法	3後		2		
	教育方法の理論と実践	2後		2		
	生徒指導の理論と方法	3後		2		
	教育相談	1後		2		
	教育実習C	4通		5		
教職実践演習(中高)	4通		2			
			0	33	0	
合計			29	109	138	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A30単位、展開科目B14単位、展開科目C2単位、合計76単位。 ※共通教育科目から1単位、専門教育科目から6単位、教職に関する科目から19単位を自由履修に充てる。						

## 履修モデルC ピアノコースで音楽教室講師・ピアノ指導者を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	合計		
共通教育科目	キリスト教学(1)	1前	2				
	キリスト教学(2)	1後	2				
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2			
	性差の科学	1・2・3・4後		2			
	日本語学	1・2・3・4前		2			
	心理学	1・2・3・4 前後		2			
	カウンセリング入門	1・2・3・4前後		2			
	英語コミュニケーションA(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションA(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションB(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションB(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションC(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションC(2)	2後	1				
	英語コミュニケーションD(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションD(2)	2後	1				
	ドイツ語会話(1)	1前		1			
	キャリア開発 A	1前	2				
	キャリア開発 B	1後	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2 前後		1			
	スポーツ・アンド・エクササイズF	1・2 前後		1			
共通教育科目計		—	15	13	28		
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2			ピアノコース12単位必修
		ソルフェージュ	1後	2			
		音楽理論	1前	2			
		西洋音楽史A	2前	2			
		西洋音楽史B	2後	2			
	小計	—	10	0	10		
	基幹科目	ピアノ奏法(1)	1前		2		
		ピアノ奏法(2)	1後		2		
		ピアノ奏法(3)	2前		2		
		ピアノ奏法(4)	2後		2		
		ピアノ奏法(5)	3前		2		
		ピアノ奏法(6)	3後		2		
		ピアノ奏法(7)	4前		2		
		ピアノ奏法(8)	4後		2		
	小計	—	0	16	16		
	演習科目	音楽芸術学演習(1)	3前	1			
		音楽芸術学演習(2)	3後	1			
音楽芸術学演習(3)		4前	1				
音楽芸術学演習(4)		4後	1				
小計		—	4	0	4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択	合計	
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前		2	
		即興演奏A	1前		2	
		即興演奏B	1後		2	
		編曲法(1)	2前		2	
		作曲学	3前		2	
		指揮法A	2前		2	
		ピアノ音楽史	3前		2	ピアノコース必修
		副科声楽	1後		1	ピアノコース必修
		ピアノアンサンブルA	2前		2	
		ピアノアンサンブルB	2後		2	
		室内アンサンブルA	3・4前		2	
		室内アンサンブルB	3・4後		2	
		ピアニストのための脱力法(1)	1後		2	
		ピアニストのための脱力法(2)	2前		2	
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2	
		特別公開レッスン	3・4通		2	集中
		声楽伴奏演習	2後		2	ピアノコース必修
		ピアノ応用演奏A	2前		1	
		ピアノ応用演奏B	2後		1	
		ピアノ応用演奏C	3前		1	
		ピアノ応用演奏D	3後		1	
		ピアノ応用演奏E	4前		1	
		古典舞踏	1・2後		2	集中
	リトミック	1・2後		2	集中	
	ピアノメソッド概論	2後		2	集中	
	ピアノ教室レッスン実習	3前		2		
	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2	
		西洋美術史C	2前		2	
		音楽鑑賞A	1前		2	ピアノコース必修
音楽鑑賞C		2前		2		
音楽鑑賞D		2後		2		
	小計		0	56	56	
専門教育科目計			14	72	86	
自由履修	中国語(1)	1前		1		
	中国語(2)	1後		1		
	中国語(3)	2前		1		
	中国語(4)	2後		1		
	中国語会話(1)	1前		1		
	中国語会話(2)	1後		1		
	中国語会話(3)	2前		1		
	中国語会話(4)	2後		1		
	現代子ども学概論	1・2・3・4前		2		
	自由履修計		0	10	10	
合計			29	95	124	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A46単位、展開科目B10単位、合計86単位。なお、展開科目のうち16単位は自由履修分に充てる。						

履修モデルD 声楽コースで演奏家を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学 (1)	1前	2			
	キリスト教学 (2)	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	グローバル・スタディーズ	1・2・3・4 前後		2		
	哲学	1・2・3・4 前後		2		
	文学	1・2・3・4 前後		2		
	英語コミュニケーションA (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションA (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションB (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションB (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションC (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションC (2)	2後	1			
	英語コミュニケーションD (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションD (2)	2後	1			
	ドイツ語会話 (1)	1前		1		
	ドイツ語会話 (2)	1後		1		
	スペイン語会話 (1)	1前		1		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2 前後		1		
スポーツ・アンド・エクササイズH	3・4 前後		1			
共通教育科目計		—	15	13	28	
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフェージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
		小計	—	10	0	10
	基幹科目	声楽 (1)	1前		2	声楽コース12単位必修
		声楽 (2)	1後		2	
		声楽 (3)	2前		2	
		声楽 (4)	2後		2	
		声楽 (5)	3前		2	
		声楽 (6)	3後		2	
		声楽 (7)	4前		2	
		声楽 (8)	4後		2	
小計	—	0	16	16		
演習科目	音楽芸術学演習 (1)	3前	1			
	音楽芸術学演習 (2)	3後	1			
	音楽芸術学演習 (3)	4前	1			
	音楽芸術学演習 (4)	4後	1			
	卒業演奏・卒業作品・卒業論文	4通		6		
	小計	—	4	6	10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				
			必修	選択	合計		
専門教育科目	展開科目 A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前		2		
		合唱	1前		2		
		副科ピアノ奏法A	1前		1		声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	1後		1		声楽・管楽器コース必修
		声楽アンサンブルA	2前		2		
		声楽アンサンブルB	2後		2		
		声楽アンサンブルC	3前		2		
		声楽アンサンブルD	3後		2		
		発音法	1前		2		声楽コース必修
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2		
	古典舞踏	1・2後		2		集中	
	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2		
		ドイツ語文化入門	1前		2		
		南欧文化入門	2前		2		
イタリア語入門(1)		2前		1		声楽コース必修	
イタリア語入門(2)		2後		1		声楽コース必修	
西洋美術史A		1前		2			
音楽と文学A		3前		2		管楽器コース必修	
音楽と文学B		3後		2		声楽コース必修	
音楽鑑賞B	1後		2		声楽コース必修		
C群(教養)	英語による日本文化	2前		2			
	世界と日本のクラシック	2後		2			
	小計	—	0	40	40		
専門教育科目計				14	62	76	
自由履修	世界の女性	1・2・3・4 前後		2			
	国際問題	1・2・3・4 前後		2			
	日本語学	1・2・3・4前		2			
	ファッションの歴史	1・2・3・4前		2			
	ドイツ語会話(3)	2前		1			
	ドイツ語会話(4)	2後		1			
	西洋音楽史入門	1前		2			
	西洋美術史C	2前		2			
	美術鑑賞A	3前		2			
	音楽鑑賞C	2前		2			
	民族と芸術	3後		2			
自由履修計			0	20	20		
合計				29	95	124	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目10単位、展開科目A20単位、展開科目B16単位、展開科目C4単位、合計76単位。なお、専門科目のうち6単位は自由履修分に充てる。							

## 履修モデルE 声楽コースで教職を目指す例

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学（1）	1前	2			
	キリスト教学（2）	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	歴史の中の女性	1・2・3・4 前後		2		
	倫理学	1・2・3・4 前後		2		
	心理学	1・2・3・4 前後		2		
	日本国憲法	1・2・3・4 前後		2		
	健康科学	1・2・3・4前		2		
	カウンセリング入門	1・2・3・4前後		2		
	英語コミュニケーションA（1）	1前	1			
	英語コミュニケーションA（2）	1後	1			
	英語コミュニケーションB（1）	1前	1			
	英語コミュニケーションB（2）	1後	1			
	英語コミュニケーションC（1）	2前	1			
	英語コミュニケーションC（2）	2後	1			
	英語コミュニケーションD（1）	2前	1			
	英語コミュニケーションD（2）	2後	1			
	IT活用A	1・2・3・4 前後		2		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズE	1・2 前後		1		
	スポーツ・アンド・エクササイズG	1・2・3・4 前後		1		
	共通教育科目計	—		15	18	33
専門 教育 科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフェージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
	小計	—		10	0	10
	基幹科目	声楽（1）	1前		2	声楽コース12単 位必修
		声楽（2）	1後		2	
		声楽（3）	2前		2	
		声楽（4）	2後		2	
		声楽（5）	3前		2	
		声楽（6）	3後		2	
		声楽（7）	4前		2	
		声楽（8）	4後		2	
	小計	—		0	16	16
演習科目	音楽芸術学演習（1）	3前	1			
	音楽芸術学演習（2）	3後	1			
	音楽芸術学演習（3）	4前	1			
	音楽芸術学演習（4）	4後	1			
	小計	—		4	0	4

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
専門 教育 科目  展開 科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前		2	
		編曲法(1)	2前		2	
		作曲学	3前		2	
		指揮法A	2前		2	
		指揮法B	3後		2	
		合唱	1前		2	
		合唱指導法	2後		2	
		副科ピアノ奏法A	1前		1	声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	1後		1	声楽・管楽器コース必修
		副科管楽器	2前		1	
		邦楽A	3前		1	集中
		邦楽B	3前		1	集中
		発音法	1前		2	声楽コース必修
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2	
	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2	
		イタリア語入門(1)	2前		1	声楽コース必修
		イタリア語入門(2)	2後		1	声楽コース必修
		美術鑑賞B	3後		2	
		音楽と文学B	3後		2	声楽コース必修
		日本音楽論	3前		2	
民族音楽論		3後		2		
音楽鑑賞A		1前		2	ピアノ・管楽器コース必修	
音楽鑑賞B	1後		2	声楽コース必修		
音楽鑑賞E	3後		2			
小計		—	0	41	41	
専門教育科目計			14	57	71	
教職 に 関 す る 科 目	教職入門	1・2・3・4後		2		
	学校と教育の歴史	1・2・3・4前		2		
	教育制度論	1前		2		
	教育課程論	3前		2		
	音楽科教育の研究A	2通		4		
	音楽科教育の研究B	2・3後		2		
	音楽科教育の研究C	2・3後		2		
	道德教育の理論と方法	3後		2		
	特別活動の指導法	3後		2		
	教育方法の理論と実践	2後		2		
	生徒指導の理論と方法	3後		2		
	教育相談	1後		2		
	教育実習C	4通		5		
	教職実践演習(中高)	4通		2		
			0	33	0	
合計			29	108	137	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A23単位、展開科目B18単位、合計71単位。 ※共通教育科目から5単位、専門教育科目から1単位、教職に関する科目から20単位を自由履修に充てる。						

履修モデルF 声楽コースで音楽教室講師・声楽指導者を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	合計		
共通教育科目	キリスト教学(1)	1前	2				
	キリスト教学(2)	1後	2				
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2			
	性差の科学	1・2・3・4後		2			
	日本語学	1・2・3・4前		2			
	心理学	1・2・3・4 前後		2			
	カウンセリング入門	1・2・3・4前後		2			
	英語コミュニケーションA(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションA(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションB(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションB(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションC(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションC(2)	2後	1				
	英語コミュニケーションD(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションD(2)	2後	1				
	ドイツ語会話(1)	1前		1			
	キャリア開発 A	1前	2				
	キャリア開発 B	1後	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2 前後			1		
	スポーツ・アンド・エクササイズF	1・2 前後			1		
共通教育科目計	—	—	15	13	28		
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2			
		ソルフェージュ	1後	2			
		音楽理論	1前	2			
		西洋音楽史A	2前	2			
		西洋音楽史B	2後	2			
	小計	—	—	10	0	10	
	基幹科目	声楽(1)	1前		2		声楽コース12単位必修
		声楽(2)	1後		2		
		声楽(3)	2前		2		
		声楽(4)	2後		2		
		声楽(5)	3前		2		
		声楽(6)	3後		2		
		声楽(7)	4前		2		
		声楽(8)	4後		2		
	小計	—	—	0	16	16	
	演習科目	音楽芸術学演習(1)	3前	1			
		音楽芸術学演習(2)	3後	1			
		音楽芸術学演習(3)	4前	1			
		音楽芸術学演習(4)	4後	1			
	小計	—	—	4	0	4	
展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	指揮法A	2前		2		
		合唱	1前		2		
		合唱指導法	2後		2		
		副科ピアノ奏法A	1前		1		声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	1後		1		声楽・管楽器コース必修
		声楽アンサンブルA	2前		2		
		声楽アンサンブルB	2後		2		
		声楽アンサンブルC	3前		2		
		声楽アンサンブルD	3後		2		
		発音法	1前		2		声楽コース必修
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備 考
			必修	選択	合計	
専門 教育 科目	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2	
		南欧文化入門	2前		2	
		イタリア語入門 (1)	2前		1	音楽コース必修
		イタリア語入門 (2)	2後		1	音楽コース必修
		西洋美術史A	1前		2	
		音楽と文学B	3後		2	音楽コース必修
		音楽鑑賞B	1後		2	音楽コース必修
		音楽鑑賞C	2前		2	
	音楽鑑賞D	2後		2		
	C群(教養)	金城シネマ	2前		2	
世界と日本のクラシック		2後		2		
	小計		0	40	40	
専門教育科目計			14	56	70	
自由 履 修	世界の女性	1・2・3・4 前後		2		
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4 前後		2		
	文化論	1・2・3・4 前後		2		
	ドイツ語 (1)	1前		1		
	ドイツ語 (2)	1後		1		
	ドイツ語 (3)	2前		1		
	ドイツ語 (4)	2後		1		
	ドイツ語会話 (2)	1後		1		
	ドイツ語会話 (3)	2前		1		
	ドイツ語会話 (4)	2後		1		
	西洋美術史B	1後		2		
	西洋美術史C	2前		2		
	西洋美術史D	2後		2		
	美術鑑賞A	3前		2		
	美術鑑賞B	3後		2		
	日本音楽論	3前		2		
民族音楽論	3後		2			
	自由履修計		0	27	27	
合計			29	96	125	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A20単位、展開科目B16単位、展開科目C4単位、合計70単位。						

## 履修モデルG 管楽器コースで演奏家を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学（１）	1前	2			
	キリスト教学（２）	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	グローバル・スタディーズ	1・2・3・4 前後		2		
	哲学	1・2・3・4 前後		2		
	文学	1・2・3・4 前後		2		
	英語コミュニケーションA（１）	1前	1			
	英語コミュニケーションA（２）	1後	1			
	英語コミュニケーションB（１）	1前	1			
	英語コミュニケーションB（２）	1後	1			
	英語コミュニケーションC（１）	2前	1			
	英語コミュニケーションC（２）	2後	1			
	英語コミュニケーションD（１）	2前	1			
	英語コミュニケーションD（２）	2後	1			
	ドイツ語会話（１）	1前		1		
	ドイツ語会話（２）	1後		1		
	スペイン語会話（１）	1前		1		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2 前後		1		
スポーツ・アンド・エクササイズH	3・4 前後		1			
共通教育科目計	—	—	15	13	28	
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフェージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
	小計	—	—	10	0	10
	基幹科目	管楽器奏法（１）	1前		2	管楽器コース12 単位必修
		管楽器奏法（２）	1後		2	
		管楽器奏法（３）	2前		2	
		管楽器奏法（４）	2後		2	
		管楽器奏法（５）	3前		2	
		管楽器奏法（６）	3後		2	
		管楽器奏法（７）	4前		2	
		管楽器奏法（８）	4後		2	
	小計	—	—	0	16	16
演習科目	音楽芸術学演習（１）	3前	1			
	音楽芸術学演習（２）	3後	1			
	音楽芸術学演習（３）	4前	1			
	音楽芸術学演習（４）	4後	1			
	卒業演奏・卒業作品・卒業論文	4通		6		
小計	—	—	4	6	10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前	2		管楽器コース必修 声楽・管楽器コース必修 声楽・管楽器コース必修 ピアノ・管楽器コース必修
		編曲法(1)	2前	2		
		編曲法(2)	2後	2		
		指揮法A	2前	2		
		指揮法B	3後	2		
		吹奏楽指導法	3後	2		
		副科ピアノ奏法A	1前	1		
		副科ピアノ奏法B	1後	1		
		副科声楽	1後	1		
		室内アンサンブルA	3・4前	2		
		室内アンサンブルB	3・4後	2		
		管楽アンサンブルA	2前	2		
		管楽アンサンブルB	2後	2		
		管楽アンサンブルC	3前	2		
	管楽アンサンブルD	3後	2			
	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後	2		管楽器コース必修 ピアノ・管楽器コース必修
		ドイツ語文化入門	1前	2		
		西洋美術史C	2前	2		
		音楽と文学A	3前	2		
		音楽鑑賞A	1前	2		
音楽鑑賞B		1後	2			
音楽鑑賞D	2後	2				
	小計	—	0	41	41	
専門教育科目計				14	63	77
自由履修	性差の科学	1・2・3・4後		2		集中
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4 前後		2		
	西洋建築史	3・4前		2		
	メディア心理学	3・4後		2		
	IT活用A	1・2・3・4 前後		2		
	古典舞踏	1・2後		2		
	イタリア語入門(1)	2前		1		
	イタリア語入門(2)	2後		1		
	西洋音楽史入門	1前		2		
	民族音楽論	3後		2		
	音楽鑑賞C	2前		2		
	自由履修計		0	20	20	
合計			29	96	125	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目10単位、展開科目A27単位、展開科目B14単位、合計77単位。なお、専門科目のうち7単位は自由履修分に充てる。						

履修モデルH 管楽器コースで教職を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
共通教育科目	キリスト教学 (1)	1前	2			
	キリスト教学 (2)	1後	2			
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2		
	歴史の中の女性	1・2・3・4 前後		2		
	倫理学	1・2・3・4 前後		2		
	日本国憲法	1・2・3・4 前後		2		
	健康科学	1・2・3・4前		2		
	英語コミュニケーションA (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションA (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションB (1)	1前	1			
	英語コミュニケーションB (2)	1後	1			
	英語コミュニケーションC (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションC (2)	2後	1			
	英語コミュニケーションD (1)	2前	1			
	英語コミュニケーションD (2)	2後	1			
	IT活用A	1・2・3・4 前後		2		
	キャリア開発 A	1前	2			
	キャリア開発 B	1後	1			
	スポーツ・アンド・エクササイズE	1・2 前後		1		
	スポーツ・アンド・エクササイズG	1・2・3・4 前後		1		
共通教育科目計		—	15	14	29	
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		
		ソルフエージュ	1後	2		
		音楽理論	1前	2		
		西洋音楽史A	2前	2		
		西洋音楽史B	2後	2		
		小計	—	10	0	10
	基幹科目	管楽器奏法 (1)	1前		2	} 管楽器コース12 単位必修
		管楽器奏法 (2)	1後		2	
		管楽器奏法 (3)	2前		2	
		管楽器奏法 (4)	2後		2	
		管楽器奏法 (5)	3前		2	
		管楽器奏法 (6)	3後		2	
		管楽器奏法 (7)	4前		2	
		管楽器奏法 (8)	4後		2	
	小計	—	0	16	16	
演習科目	音楽芸術学演習 (1)	3前	1			
	音楽芸術学演習 (2)	3後	1			
	音楽芸術学演習 (3)	4前	1			
	音楽芸術学演習 (4)	4後	1			
	小計	—	4	0	4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	合計	
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	和声	2前		2	
		編曲法(1)	2前		2	
		編曲法(2)	2後		2	
		作曲学	3前		2	
		指揮法A	2前		2	
		指揮法B	3後		2	
		合唱	1前		2	
		合唱指導法	2後		2	
		吹奏楽指導法	3後		2	管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法A	1前		1	声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	1後		1	声楽・管楽器コース必修
		副科声楽	1後		1	ピアノ・管楽器コース必修
		管楽アンサンブルA	2前		2	
		管楽アンサンブルB	2後		2	
		邦楽A	3前		1	集中
		邦楽B	3前		1	集中
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2	
	B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2	
		美術鑑賞B	3後		2	
		日本音楽論	3前		2	
民族音楽論		3後		2		
音楽と文学A		3前		2	管楽器コース必修	
音楽鑑賞A		1前		2	ピアノ・管楽器コース必修	
音楽鑑賞E		3後		2		
小計	—		0	43	43	
専門教育科目計				14	59	73
教職に関する科目	教職入門	1・2・3・4後		2		
	学校と教育の歴史	1・2・3・4前		2		
	教育制度論	1前		2		
	教育課程論	3前		2		
	音楽科教育の研究A	2通		4		
	音楽科教育の研究B	2・3後		2		
	音楽科教育の研究C	2・3後		2		
	道德教育の理論と方法	3後		2		
	特別活動の指導法	3後		2		
	教育方法の理論と実践	2後		2		
	生徒指導の理論と方法	3後		2		
	教育相談	1後		2		
	教育実習C	4通		5		
	教職実践演習(中高)	4通		2		
				0	33	0
合計				29	106	135
<p>【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A29単位、展開科目B14単位、合計73単位。  ※共通教育科目から1単位、専門教育科目から3単位、教職に関する科目から22単位を自由履修に充てる。</p>						

## 履修モデルⅠ 管楽器コースで音楽教室講師・管楽器指導者を目指す例

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	合計		
共通教育科目	キリスト教学(1)	1前	2				
	キリスト教学(2)	1後	2				
	芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2			
	性差の科学	1・2・3・4後		2			
	日本語学	1・2・3・4前		2			
	心理学	1・2・3・4 前後		2			
	カウンセリング入門	1・2・3・4前後		2			
	英語コミュニケーションA(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションA(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションB(1)	1前	1				
	英語コミュニケーションB(2)	1後	1				
	英語コミュニケーションC(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションC(2)	2後	1				
	英語コミュニケーションD(1)	2前	1				
	英語コミュニケーションD(2)	2後	1				
	ドイツ語(1)	1前		1			
	キャリア開発 A	1前	2				
	キャリア開発 B	1後	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2 前後		1			
	スポーツ・アンド・エクササイズF	1・2 前後		1			
共通教育科目計	—	—	15	13	28		
専門教育科目	基礎科目	芸術学	2前	2		管楽器コース12 単位必修	
		ソルフェージュ	1後	2			
		音楽理論	1前	2			
		西洋音楽史A	2前	2			
		西洋音楽史B	2後	2			
	小計	—	—	10	0		10
	基幹科目	管楽器奏法(1)	1前		2		
		管楽器奏法(2)	1後		2		
		管楽器奏法(3)	2前		2		
		管楽器奏法(4)	2後		2		
		管楽器奏法(5)	3前		2		
		管楽器奏法(6)	3後		2		
		管楽器奏法(7)	4前		2		
		管楽器奏法(8)	4後		2		
	小計	—	—	0	16		16
	演習科目	音楽芸術学演習(1)	3前	1			
		音楽芸術学演習(2)	3後	1			
		音楽芸術学演習(3)	4前	1			
		音楽芸術学演習(4)	4後	1			
小計		—	—	4	0	4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択	合計	
専門教育科目 展開科目	A群 (音楽理論 /音楽実技)	編曲法(1)	2前		2	
		編曲法(2)	2後		2	
		指揮法A	2前		2	
		吹奏楽指導法	3後		2	管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法A	1前		1	声楽・管楽器コース必修
		副科ピアノ奏法B	1後		1	声楽・管楽器コース必修
		副科声楽	1後		1	ピアノ・管楽器コース必修
		管楽アンサンブルA	2前		2	
		管楽アンサンブルB	2後		2	
		管楽アンサンブルC	3前		2	
		管楽アンサンブルD	3後		2	
		エクスペリメンタルトレーニング	1後		2	
		古典舞踏	1・2後		2	集中
		B群 (文化・鑑賞)	ヨーロッパの文化と芸術	2後		2
音楽と文学A	3前			2	管楽器コース必修	
美術鑑賞A	3前			2		
美術鑑賞B	3後			2		
音楽鑑賞A	1前			2	ピアノ・管楽器コース必修	
音楽鑑賞C	2前			2		
音楽鑑賞D	2後			2		
C群(教養)	民族と芸術	3後		2		
	金城シネマ	2前		2		
	小計		0	41	41	
専門教育科目計			14	57	71	
自由履修	文化論	1・2・3・4 前後		2		
	歴史学	1・2・3・4 前後		2		
	英米文化研究E	2・3・4後		2		
	西洋建築史	3・4前		2		
	発達と学習	1・2・3・4前後		2		
	現代子ども学概論	1・2・3・4前		2		
	和声	2前		2		
	作曲学	3前		2		
	指揮法B	3後		2		
	英米文化研究A	2前		2		
	イギリス文化概論	2前		2		
	アメリカ文化概論	2前		2		
	民族音楽論	3後		2		
	自由履修計		0	26	26	
合計			29	96	125	
【専門教育科目の履修方法】基礎科目10単位、基幹科目16単位、演習科目4単位、展開科目A23単位、展開科目B14単位、展開科目C4単位、合計71単位。						

ピアノ教室レッスン実習委託契約書（案）

学校法人金城学院金城学院大学（以下「甲」という。）と\_\_\_\_\_（以下「乙」という。）とは、甲が甲の学生のピアノ教室レッスン実習（以下「実習」という。）の指導を乙に委託することに関し、次のとおり委託契約を締結する。

（実習の委託）

第1条 実習の最終的な責任は甲が負うものとし、その教育の一部として甲は乙に対し、実習の指導を委託し、乙はこれを受託するものとする。

（実習の内容）

第2条 実習期間は、原則として8日間（1日4時間）とする。

- 2 実習場所は、原則としてピアノ教室もしくはそれに準ずる施設とする。
- 3 実習生の員数及び氏名、実習時期については、別表1に定める。
- 4 甲は乙に「実習要綱」等を提示し、甲は乙に実習の指導（以下「実習指導」という。）の方針等を説明し、実習の指針とするが、具体的な実習内容については、甲乙協議の上、決定するものとする。

（連携と協力）

第3条 甲と乙は、実習の実施に当たって、双方、連携と協力を図り、円滑な実習を行うことができるよう努力するものとする。

（事故の責任）

第4条 本委託契約第2条で規定する実習を乙にて実施している甲の学生（以下「実習生」という。）が、実習中に過失等により、乙または乙の利用者および第三者に損害を与えた場合は、実習生もしくは甲がその損害賠償の責任を負うものとし、その責任の範囲は、甲が加入する賠償責任保険によるものとする。

- 2 実習生の実習期間中における事故および災害等による責任は、乙に故意または過失がある場合を除き、実習生もしくは甲が負うものとする。

（実習生の義務）

第5条 甲は、実習生に対し、実習期間中に知り得た事実について、実習期間中はもとより、実習終了後においても、個人情報保護法の趣旨に則り、守秘義務を負わせるものとする。

2 実習生は、必要な事項の報告など、乙の実習指導者の指示に従うものとする。

(実習生の権利)

第6条 乙は、実習生の権利を侵害しないよう、適切な配慮を行うものとする。

2 甲は、乙に対して実習生に関する個人情報を必要最小限の範囲で提供するものとし、乙は実習生の個人情報について守秘義務を負うものとする。

(実習指導料)

第7条 甲は乙に対し、実習指導料として実習生1人につき4万円を支払うものとする。

但し、実習期間中、実習生が実習に要した費用については、実習指導料とは別途清算するものとする。

(その他)

第8条 本委託契約の履行に関し、とくに定めのない事項の取扱いおよび解釈上、疑義が生じた場合の取扱いについては、その都度、甲乙協議によるものとする。

以上、契約の締結を証するため、本書を2通作成し、甲乙両者記名捺印の上、各自1通を保有するものとする。

平成 年 月 日

委託者(甲) 愛知県名古屋市守山区大森2丁目1723番地

代表者 学校法人金城学院

金城学院大学

学長 奥村 隆平

受託者(乙)

代表者

【別表 1】

実習生の員数・氏名・実習時期

No.	実習生氏名	実習期間	実習期間	実習期間
1		年 月 日～ 年 月 日	年 月 日～ 年 月 日	年 月 日～ 年 月 日
2				
3				
4				
5				

## 継続購入雑誌(和雑誌)

1	BT: 美術手帖
2	月刊「ギャラリー」 = Gallery
3	こころの科学 = Human mind
4	ムジカノヴァ = Musicanova
5	日本音楽療法学会誌
6	音楽現代
7	礼拝音楽研究
8	臨床精神医学
9	教育音楽
10	精神医学 / 医学書院
11	精神神経学雑誌
12	精神科治療学
13	新美術新聞 : the shin bijutsu shinbun

## 継続購入雑誌(洋雑誌)

1	Art bulletin
2	Art in America : an illustrated magazine
3	Art journal / College Art Association of America
4	Dementia : the international journal of social research and practice
5	Infant mental health journal / Michigan Association for Infant Mental Health
6	Journal of music therapy / National Association for Music Therapy